

<p>ふりがな 氏名</p>	<p>なかむら たけとら 中村 猛虎 (俳句)</p>
<p>功績概要</p>	<p>平成17年 句会「亜流里（あるさと）」設立 平成19年～29年 「播磨芭蕉忌フェスティバル」開催 令和2年 句集「紅の挽歌」出版 令和5年 第30回西東三鬼賞（岡山県津山市主催） 第59回姫路文化賞</p> <p>平成17年、姫路に帰郷後姫路商工会議所青年部を中心とするメンバーで句会「亜流里（あるさと）」を設立。以来今日に至るまで代表を務める。播磨地域における若手を中心とした新たな俳句活動の拠点を作るとともに、俳句文化の振興に取り組む。</p> <p>また、松尾芭蕉にゆかりのある、江戸・明治期の姫路市の俳諧拠点「風羅堂」の再建を目指し、平成19年に「播磨芭蕉忌フェスティバル」を開催し、平成29年まで継続された。芭蕉を第1世とする堂号は長らく途絶えていたが、平成23年に氏が69年振りに風羅堂第12世として名跡を継いだ。</p> <p>さらに、市内小中学校で俳句の出前授業を毎年実施し、若い人々への普及啓発にも尽力している。</p> <p>令和5年3月には、戦争の愚かさを詠んだ「回天や海鼠を切れば水溢る」で、第30回西東三鬼賞（岡山県津山市主催）を受賞。「類稀な戦争俳句」と高く評価された。</p> <p>創作活動の成果や普及活動の功績は、播磨地域の俳句文化の振興と発展に寄与しており、今後もその活動が大いに期待される。</p>